

## 2024年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/欧州泌尿器科学会 (EAU) 交流プログラム

### 2024 JUA/EU Resident Programme 参加報告

上 川 裕 輝 (春日井市民病院)

この度、JUA/EU Resident Programme を通じてパリで開催されたEAU24に参加させていただきました。私にとって初めての国際学会を終えた所感は「どうすれば再びこの場に戻ってこられるだろうか」ということでした。EAUに参加したという経験自体もそうですが、現地でお会いした日本国内他大学の先生方、そしてなにより共にプログラムに参加した2人の先生との出会いは何事にも代えがたいものでした。

東京大学の佐藤慧吾先生とは、シャルル・ド・ゴール空港で合流し滞在中多くの時間を過ごしました。長崎大学の松島俊樹先生とは滞在2日目のホテルの朝食で初めてお目にかかりました。松島先生は奥様と参加されており、滞在中は基本的に4人で朝食に集まり当日の予定を共有していました。

学会会場はパリのコンベンションセンターで、2階が受付・企業ブース、3階が発表会場になっており、1フロアにも関わらず大変広かったです。Live surgery 会場では巨大モニター4枚で同時に4施設から中継されており、音声はヘッドセットのチャンネルを自分で合わせる方式でした。私が4月から赴任した病院でちょうど導入されたHugo RASシステムを使用したロボット支援手術のライブも見ることができました。ライブ手術を見るのは今回が初めてで、手術スタッフの動きは最適化されてお

り、手術自体もとてもスムーズでした。私にとっては、これから始まる当院でのHugoの初手術がイメージできる良い材料となりました。また、口頭発表やポスター発表などではdiscussionに非常に重きが置かれていました。座長だけでなく会場からも非常に鋭い質問が続くことが多く、それでも毅然と答える発表者の先生方はとても格好よかったです。私が参加したセッションでは、質問の要点の多くは地域差によって生まれる医療の差を埋めるためにどう工夫可能かということや、発表内容や現在のエビデンスが将来の医療にどう影響するのかというものが多く、その議論を聞いているだけでも大変刺激を受けました。JUA EAU joint sessionにも参加し、日本から参加されている先生方の勇姿を拝見しました。どの発表も大変興味深く、発表後の質問を通してその演題がさらに深まっていく様子を目の当たりにしました。また、シンポジストとして日本を代表して発言する先生方の姿にも心を打たれました。

学会の合間にはパリ市内の観光にも繰り出し、凱旋門では“パリ感”のある写真を撮りました。そして、あこがれのシャンゼリーゼ通りで夕方から飲むシャンパンは格別でした。佐藤先生、松島先生・奥様と気づけば4時間も話し続けていたのですが、夜8時だというのにサマータイムのパリはまだ明るく驚きました。日本でも同



写真1 学会場で。左から松島俊樹先生、筆者、佐藤慧吾先生



写真2 福井大学の先生方と。左から奥村悦久先生、筆者、赤松秀輔教授、寺田直樹教授、稲村聡先生

じ一日の中でこんな風に on/off を切り替えられれば良いのに…とも思いましたが、逆にこの素敵な時間の使い方をするためにまた海外学会へ来たいとも思いました。また別の日には当教室の赤松教授にお声掛けいただき、日本から EAU に参加していた東京医科歯科大学・藤田医科大学・宮崎大学の先生方との食事会や、福井大学の寺田直樹教授・稲村聡先生・奥村悦久先生との食事会で末席を汚させていただきました。京大時代のお話や、これからのことなど過去未来にわたる様々なお話を聞かせていただき大変楽しい会でした。

今回のプログラムを通じて、いまの自分自身の実力では得ることのできない貴重でかつ刺激的な経験をさせて

いただきました。今回出会った佐藤先生・松島先生とは今後も切磋琢磨する関係が続く予感がします。そして、まだ今回の EAU が続く中で来年の EAU や AUA などの演題について既に考え始めている先生方のお話を聞き、自分自身もその良い循環に入っていきたいと強く感じました。まずは足元を固めるために、国内での学会活動を積極的に行おうと決意し帰国の途につきました。

最後になりますが、本プログラムに推薦くださった当教室の赤松教授、JUA とくに国際委員会の方々、EAU 担当スタッフ、およびすべての関係者にこの場で御礼申し上げます。